

平成30年度
事業報告

社会福祉法人 南野育成園

一. 平成30年度 重点項目の実施状況

はじめに

現代の日本の子どもに著しく欠けているのは、自己肯定感の低さと勉強や運動に集中できにくいと言われている。これは高学歴化社会となり、親（特に母親）が、幼少期より子どもに過剰な期待をかけている傾向がその背景にある。また、施設入所してくる子どもたちは、格差社会となり、子どもの貧困が根強く残っている中で不安定な生活を送ってきた。

私たち施設の職員は、まず第一に笑顔で子どもに接していくことで、「僕は大切にされている」「私は私らしくいて大丈夫なのだ」という思いがもっとしっかりと子どもたちに届くように支援していくことで、子どもたち一人ひとりが大切にされていることが実感できるように取り組んでいきたい。

1 安心して安全な生活の保障と生活力の獲得（小規模化への取り組み）

平成30年度は事故やケガもなく、子どもたちは笑顔で元気に生活することができた。これは、職員が気持ちを一つに子どもたちに関わったことと、園外指導にしっかり取り組んだことで、子どもたちの生活力が向上したと考える。

2 児童への学習支援

- ①貧困の連鎖を断ち切るためにも、子どもたちの進学、資格の獲得は重要な課題であることから、早い段階から進路について保護者・学校・児相を含め協議した。
- ②学習ボランティア（和気先生や中国学園大の学生他）による熱心な定期的指導により、信頼関係のもとに学習意欲向上につながっている。
- ③中学生については、考査前に御南中学校の先生方による訪問指導が継続されている。

3 子どもの権利擁護

- ①児童会（リーダー会、小学ミーティング）を毎月実施した。子どもたちが自由に主体的に話し合える雰囲気の中で、子どもたちの意見や要望を丁寧に聞き取ることで、子どもたちにとって実効性のあるものとなっている。
- ②意見箱を設置し、月2回の職員会議で取り上げ、子どもたちにフィードバックしている。このことは職員との信頼関係にもつながり、一人ひとりが大切にされている証しでもある。
- ③CAP ワークショップを実施し、いじめや性的問題など出てきた課題に対応した。
- ④権利とは、その人がその人らしくあることが保障されることであることから、子どもたち一人ひとりの成長や能力、特性に考慮したうえで、寄り添った支援ができるように取り組んだ。

4 余暇支援

生活グループの単位や、全体での希望者を募ったり、さまざまな児童構成の中で、園外に出かけて自然やスポーツ、文化に触れ合う機会を設けることに努めた。公用車による移動のほか、サイクリングでは、交通ルールを守る実践の場となったり、お互いを思いやる気持ちを醸成したりと、児童の成長が実感できるものとなった。

土日の公園への外出や、自然との触れ合いが児童の情緒の安定に、大きく寄与したと実感している。

5 保護者支援

保護者の支援にあたる専門職として家庭支援専門相談員があり昨年度より複数配置が可能となったことから2名配置している。

保護者対応や家庭訪問が夕方や夜間になることもたびたびであるので、連携をして今後ますます手厚い保護者支援が可能となるものと考えている。

6 里親支援

①里親支援専門相談員の業務として

入所児童に関しては、一時里親との連絡調整や、一時里親への出発や帰園時の対応など、きめ細やかな支援に努めた。

里親委託へ措置変更になった児童の家庭訪問を行い、児童面接や里親の相談支援を行った。

里親会主催の研修会への参加、行政主催の各種会議に参加し、また他機関と連携して大学での出前講座を行うなど、里親委託推進に向けて積極的に行動した。

②施設全体で里親育成としての各種研修を受け入れ

児童理解についての知識の習得や、児童に関わる実践の場の提供とフォスターフレンズの会場提供により、里親の様々な思いと生の声に触れることを通して、里親委託推進へ努めた。

7 情報公開

ホームページを運用して、財務諸表の公表はもとより、施設の運営状況を周知することに努めた。また、ブログの開設で、施設における行事や児童の暮らしぶりを掲載し、施設をより身近に感じてもらえるように努めた。

8 自己評価の実施

第三者評価の結果を受けて、未実施の項目については必ず見直しを行い、実践に結びつけた。

また、毎日の職員ミーティングの中で、今年度の自己評価を参加職員の合意のもと実施した。

特に毎日の職員ミーティングを重要なことと位置付けており、毎回必ず重要項目の読み合わせを行っている。

9 職員の研修体制の充実

専門の研修機関が企画実施する、経験年数や段階に見合った研修や、研究協議会への参加については、本人の希望も考慮しながら計画的に実施できた。人材育成については全養協規模でも重要課題とされ、研修の在り方の研究がされている。

当園においても、今後は全養協版を参考に年間を通しての研修に取り組むことが求められる。